

安全学入門

入会金無料

入会金(通常)3,000円が
無料になります。セミナーの
目的

安全・安心な社会の実現のためには、工学的に安全を実現するだけでなく、社会科学や人文科学も包含して、広く、統一的、包括的、領域横断的に考察する必要があります。このような新しい学問が安全学です。本講座では、安全とは何かなどの理念的な面、誤使用などの人間的な面、消費者の生活や企業活動の社会的な面など、安全学の立場から、安全の在り方について広く統一的に考えます。(注)本講座は、理工学研究科新領域創造専攻の科目である安全学特論1を一般に公開するものです。

受講をお薦めする方

安全に興味を持つ一般の方々から、安全を学習する学生・大学院生、および企業もしくは公官庁の安全関係者(安全管理者、製品設計者、法規・規格担当者、安全評価関係者、経営者、等)まで、広く受講されることを期待しています。

Greetings from Underwriters Laboratories Inc;

Underwriters Laboratories Inc. or "UL" is once again pleased and honored to partner with Meiji University and Professor Mukaidono, the leading authority in Safenology in Japan, in support of Safety Research classes. This innovative curriculum will help to educate and stimulate students and business professionals in the field of product and public safety, which is of critical importance as products become more and more complex, and manufacturers employ supply chains that stretch around the world. The current economic environment also creates a need to place more emphasis on product safety, as companies strive to do more with less.

UL is a US headquartered company that is focused on public safety. Its corporate mission is "to promote safe living and working environments for people, through the application of safety science and hazard based safety engineering", and to achieve this mission

ULからのご挨拶

アンダーライターズ・ラボラトリーズ インク(UL)といたしまして、安全研究のための講義の支援として、日本における安全学の第一人者であります明治大学、同大学向殿教授とパートナーシップを組むことができ、再度の喜びとともに名譽なことと考えております。この新しい考えに基づく講義は、製品や社会の安全の分野における学生並びにビジネスに関わる方々を教育し、刺激を与えるお役にたつことでしょうか。そして、そのことは、製品がますます複雑になりかつ製造業の方々が世界に広がるサプライチェーンを採用されるようになったことで非常に重要なこととなっています。昨今の経済状況は、企業というものがより少ないコストでより多くのことをしようと努力されておられるなか、製品安全ということにもっと重点を置く必要性を生み出しているのです。

ULは、公共安全ということに焦点をあてて事業を営んでいる米国に本社をおく会社です。その企業ミッション、使命は、安全科学とハザードベアセーフ

UL develops product safety standards, conducts safety testing and certifies products for safety. It is well known to Japanese companies who export their products to the USA, especially manufacturers of electrical and electronic devices.

As we enter our third year of partnership with Meiji University, we salute the students who will participate in Professor Mukaidono's classes. As you complete these classes, like UL, you will be working for a safer world, and building a safer society.

Best regards,



August W. Schaefer
Sr. Vice President & Public Safety Officer

イーエンジニアリング(HBSE)を通じて人々のために安全な生活と職場環境を促進することであり、その使命達成のため、ULは、安全規格を策定し、安全試験を行い、そして製品安全認証を発行しています。電気・電子機器の製造業を中心に、米国に製品を輸出される日本の企業の皆様によく知られています。

明治大学とパートナーシップを組み始めてから三年になるわけですが、向殿教授のクラスを受講される皆様に敬意を表したいと存じます。この講義を修得されて、ULのように安全な世界の構築にむけてお仕事をされ、またより安全な社会を作り上げていかれることと存じます。

敬具

オーガスト W シェーファー
上級副社長兼公共安全担当役員

コーディネーター・講師紹介



明治大学理工学部情報科学科教授
向殿 政男 (兼) 理工学研究科安全学系

明治大学大学院工学研究科博士課程修了。専門は、フジィ(あいまいの科学)理論、人工知能、機械安全。工学博士。元日本フジィ学会会長、元日本信頼性学会会長。現在、安全技術応用研究会会長、日本学術会議連携会員、経済産業省消費経済審議会製品安全部会長、私立大学情報教育協会会長。



お茶の水女子大学教授
増田 優 明治大学理工学部客員教授

京都大学理学部卒業、通商産業省化学品安全課、工業技術院技術審議官、経済産業省製造業局次長等を歴任。東京農工大学教授・副学長を経てお茶の水女子大学教授。化学生物総合管理学会会長、社会技術革新学会会長、学術博士。



早稲田大学理工学術院創造理工学部
小松原 明哲 経営システム工学科教授

早稲田大学理工学部工業経営学科卒業。博士(工学)。全沢工業大学教授を経て現職。専門は人間生活工学。著書に、「ヒューマンエラー」(丸善)、「エンジニアのための人間工学」(日本出版サービス)、「ワークショップ人間生活工学」(丸善)などがある。



明治大学理工学部建築学学科教授
山本 俊哉 (兼) 理工学研究科安全学系

千葉大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻を修了。建築・都市計画コンサルタントの(株)マヌ都市建築研究所を経て、現職。博士(学術)。専門は都市計画、都市防災、都市防犯。(財)都市防災研究所評議員。著書に「防犯まちづくり」(ぎょうせい)、「大震災に備える」(丸善)。

日程		内容	講師
1	4/10 (土)	安全学のすすめ 安全とは何か、リスクとは何か等の安全の哲学的な面の紹介と共に、安全学という新しい安全に関する学問の全体像を紹介する。	向殿
2			
3	4/24 (土)	個人から安全を考える 製品の「誤使用」や、「使いやすい」製品設計等の安全に関連したヒューマンファクターについて詳しく紹介をする。	小松原
4			
5	5/15 (土)	世界の中の安全学 グローバル化した現代で、我が国だけで安全を考えることはもはや出来ない。世界の中の安全学として、世界的な観点からの安全の在り方についての現状と将来について考察する。	増田
6			
7	5/29 (土)	地域における安全を考える 身近な地域における災害と犯罪の事前予防に焦点をあて、まちづくりを通じた安全と安心の確保について考察する。	山本
8			
9	6/12 (土)	社会制度として安全を創る 安全の規則や安全の社会制度の在り方を考えることを通して、安全と責任の関係について考察する。	杉本
10			
11	6/26 (土)	企業としての安全活動 安全なものづくりや安全な経営において、企業の安全文化を構築し、企業の社会的責任を果たすこと、そして企業の持続的可能性について考察する。	首藤
12			
13	7/10 (土)	ものと環境としての安全 材料や物質を通して環境の安全を考えると共に、リサイクルを通して安全を創ることを考える。	菊池
14			
15	7/24 (土)	暮らしから安全を考える リスクコミュニケーションの基礎について紹介すると共に、安全におけるリスクコミュニケーションの重要性と、リスクコミュニケーションの実践等についても考察する。	北野
16			

(懇親会) なお、最終日の7月24日には、授業終了後、講師と履修者全員参加で懇親会を開催し、フリーディスカッションを行う予定です。

この講座のお申込は、「電話」「FAX」「メール」での受付となります。ホームページからの「オンライン申込」はご利用いただけませんのでご了承ください。

電話 03-3296-4423 FAX 03-3296-4542 メール academy@mics.meiji.ac.jp



長岡技術科学大学システム安全系教授
杉本 旭 明治大学理工学部兼任講師

早稲田大学大学院修士、労働省産業安全研究所機械研究部主任研究官、工学院非常勤講師、北九州市立大学国際環境工学部機械システム工学科教授を経て、現職。NPO安全工学研究所理事長を併任。長らく、自動化技術、ロボット技術に伴う安全についてのプラスとマイナスの両面からの研究に従事。工学博士。



明治大学理工学部建築学科教授
菊池 雅史 (兼) 理工学研究科安全学系

1974年から建設廃棄物、工業副産物の再資源化に関する実験的研究に着手し、その後、建築材料の環境影響評価システム、目的指向型材料設計システム、解体設計システム等を構築。国土交通省や神奈川県等のグリーン調達関連委員会・建築材料のJISの改正等の委員長を歴任。また、環境保全・資源循環に関する技術開発を民間企業・自治体等の委託を受けて実施している。工学博士。



(株)三菱総合研究所科学・安全政策研究本部
首藤 俊夫 安全科学グループ主席研究部長・主席研究員

東海大学工学部航空宇宙学卒業。日本情報研究センターを経て、現在に至る。専門は航空宇宙工学、構造理論、材料強度、システム工学等。人工衛星の事故調査を初め、各種工学問題の解決のためのシミュレーションや機械構造物の設計支援システムの開発に従事し、最近では製品安全・機械安全に係る技術規格の体系化や制度設計の研究に従事。



明治大学理工学部応用化学科教授
北野 大 (兼) 理工学研究科安全学系

1942年東京都に生まれ、1965年明治大学工学部工業化学科卒業、1972年東京都立大学大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)。(財)化学物質評価研究機構企画管理部長、淑徳大学教授を経て、2006年4月より現職。経済産業省化学物質審議会委員及び産業構造審議会委員、環境省中央環境審議会委員。専門は、環境化学、リスクコミュニケーション。2004年度日本分析化学会技術功績賞受賞、2006年度環境科学会学会賞受賞。

